

ブロッコリーってゆでるの？

【あらまし】

聞き手の中村愛加(仮名、21歳)は、「赤ちゃんできて結婚する」と突然連絡してきた友人、斉藤直美(仮名、21歳)の人生に興味を持ち、聞き取りに出かけた。わがままだけど、みんなから愛され、いつも天使のような直美だったが、20歳という若さで妊娠し、結婚して、妻になり、そして、母になった。そんな直美には、友だちにも言えない秘密があった。

●小見出し

いつのまにか

ケンカ

肩ぐるま

結婚式

いつのまにか

—悠くん(仮名)とのラブストーリー、話してよ。

出会いは…私の同中の男(A君)が「今から遊ぼう」って言うてきて。そんな時、Bちゃんと遊んどったもんで。「友達がおる」って言ったなら、「じゃあ、こつちも誰か連れてくわ」って言うて。連れてきた人が悠で、四人で、遊んだじゃんね。カラオケ行っただけ。そんな時に色々話して、「K中だよ」って言うたら。「俺もK中だよ」、「えー！ じゃあ、先輩じゃん」ってなつて。それから、「始めまして」って自己紹介して…なんか敬語になつちやつて(笑い)。

—先輩だもんね。

—そうそう、そうそう！ そこで初めて先輩って分かつて。それから、メアド教えて、メールして。でも始めの方は、全然眼中になかった(笑い)。だから、メールきても、シカトして。そつけない態度とつて、結構ひどい扱ってた。でも、悠からは(メールが)、きてたの。「またきた(嫌な顔で)」とか思つて…(笑い)。

—ひどい態度だね(笑い)！ じゃあ、第一印象わるかったの。

印象は別に、ただの先輩どまり。この人とは、ないなつて思った。全く運命感じるとかなかった。ビビビ！ とか、まったくなかつたな。普通の友達つというか、知り合い…？ どうせ遊んで終わるな…って思ってた。

—メール無視しつづけて、どうしてそこから結婚へ。

「遊ぼう！」ってすつこい誘われたじゃんね。悠の同級生(A君)と、私のタメの友達(Bちゃん)がいて、四人で毎日遊んでたじゃんね。そのうち二人(A君と、Bちゃん)は、付き合つて。その二人が、すつこい押してくるじゃんね。「悠が好きなんだけど、どう思ってるの」とか、言われて。だから、好かれてることは、分かつてたじゃんね。だけど、別に興味なかつたんだけど。毎日会つてたら、色んな面が見えてきて、徐々に惹かれてつたのかな。

—どんなところに。

—周りに気遣える人だなーとか、優しさだとか。好きだなーと思つたのは、何だろうな、あ！ 自慢話じゃないんだけど(笑い)、悠の、同級生のもう一人(C君)からも「好き」って言われて。同中の男子(D君)からも「好き」って言われて。モテ期だったの！ 三人から好きって言われとつたやんね。私は、悠の友達(C君)がすつこいしゃべりやすくて、面白かつたやんね。

—じゃあ、心はそつちよりだったの。

—そう、そつちよりで。「今どうなの」って相談のつてもらつてたのに、告白されて。えー！ 何この展開！ つてなつて。みんな遊んだりしとつて。でも、同中の男子(D君)が、嘘つきで、「今(悠が)女とメールしてるよ」とか、「女と遊んどるよ」とか。めつちや言つてきたの！(えー！)

—それで私が、何それ！ つて怒つてんの。別に、怒んなくてもいいはずなのに、すつこい怒れて。なんか、それで、悠に対

して気になつてるのかなつて。

―気になつてるC君は、どこ行っちゃつたの。

C君、ほんとは、最悪な人だった(笑い)！ みんなが好きつて言うもんで、じゃあ俺も告つてみようつていう感じだったの。

―うわー！ よかつたね。ひっかかんなくて。

見る目ないもんでさー(笑い)！

―もう一人のD君はどうなつたの。

Dは、もう友達にしか見えなくて、ない！ つて思つたの。ほんで、(悠のこと)色々いつてくるもんで、嫌になつちやつて断つて。それで、悠のこと気になつとるのに気づいて…つて感じかな。ほんとに、いつのまにかつて感じだった。

―どれくらい付き合つたの。

二年。

―一回別れたよね。

別れたのは、三か月の時。停滞期の時に私が、嫌になつちやつて(笑い)。でも、いざ離れてみるとやつぱり寂しくて、存在に気付いた。

―何が嫌だったの。

私が飽きやすいタイプだもんでさ(笑い)。あと、悠が重かつた。

―どんな所が。

付き合つてすぐに、女のメモリーを全部自分で消しとつて…。

―それつて嬉しくないの。

嬉しかったんだけど、「直美の男のメモリーも消して」つて言つてきたやんね。でも、「それは、友達だから消せん！」つて喧嘩になつて。重いな―つて嫌になつちやつて。あと、O高校の人(まえ直美が好きだった人)が、その時に「遊ば」つて連絡してきて、悠よりもそつちにゆらいだりもした。

―そうなんだ！ で、どうなつたの。

うん(笑い)、でも、やつぱりそれもわるい奴で、彼女がいたの！ で、終わつた。しかも、嫌なこと言われた…。「化粧が濃い」つて。

―彼女がいたつてことは、いつ知つたの。

それはつと後。共通の友達から聞いた。

―相変わらずダメメンだったね。

そう！ほんとに見る目なかつたんだよー！！ 男は、顔じゃなくて中身なんだつて、その時思つた。

―結婚への鍵は、顔。

そうかも！ 私、ず―つと面食いだつたからねー(笑い)。

―一回別れてからは、ずっと順調。

うん！ 順調だったね！ 別れ考えたこともなかつたし。停滞期も一回も来なくて。ずっと好きつて感じだった。

ケンカ

―悠くんと合わないところあつた。

価値観の違いだと思ふ。悠の育つてきた環境とさ、自分

の育ってきた環境が、まるで違うもんで。考え方も変わってくじやん。例えば、こっちが、こういう風じゃん！て思っても、悠はこういう風だ！て自分の考えがあるじゃん。それが、すれ違うと、もうやだーってなる。

—例えば。

私は、お金に困って生きてこないじゃんね。でも、悠は、あるんだって！ 結婚前日にも喧嘩したんだけど…「もう結婚しない！」ってなったの！ 実は。

—えー！ 結婚式の前夜に？！

そう！ なんて、そうなたんだろう…なんだったかなー？ たぶん、悠の親のことだったんだけど。何がその時嫌だったかは、覚えてないんだけど…結婚式の費用って高いじゃん？ だもんで、向こうの親に、「やらなくてもいい」って言われて。お金がないから、挙げれないって感じだったのかな？ 分かんないけど…乗り気じゃなかった。

でもうちの親が、「式を挙げさせてあげたい」って言うてくられて、挙げることになったけど。向こうの親が、「半分半分」って言うてきて。それは、「分かりました」ってなったんだけど。

でも、向こうの方が呼ぶ人数多いもんで。普通は、向こうが多く払うやんね。7対3くらいかな？ うちは、そういう考えやんね。でも、向こうは、違って。「別に、半分半分でないじゃん。同じ結婚式を、同じようにするんだから。半分半分で払えばいいじゃん」って。

自分たちの価値観だけじゃなくて、親の価値観も違って。とりあえず私は、向こうの親が好きじゃなくて…それを悠に言ったの。でも、悠は、自分の親だもんでさ、「なんでそう言うこというの」ってかばうじゃん？ で、喧嘩になって、悠も、うちの親のこと逆に言うてきたから…。

—どんなこと言われたの。

なんだったかなー…なんかねー、「直美んちは、お金がなくて困つてないかもしれんけど、うちは、お金がない！」とか言われたかな。

—そんなに貧乏なの。

つて言うんだけど、毎日お酒飲んでるじゃんね。その分のお金は、どうしてるの？ つてなるじゃん？ それを、「喧嘩して、ストレスたまるもん、飲まんとやってけんわ！」とか言うつとつて、かばうじゃんね。でもそんなに、「お金がない」って言うだったら、ちよつとぐらいお酒我慢して、お金貯めればいいじゃんって思つて。とりあえず、お互いの親の悪口の言い合いをしたわけ！

—それが結婚前夜？！

そう！ そいで、もう嫌だ！ つてなつて実家帰つて。お母さんに、「もう結婚したくない！」って言ったの。結婚つて、向こうの家の子になるつてことじゃん。だから、ほんとに嫌で、そのまま実家帰つちやつたの(笑い)！

お母さんの話を冷静になつて聞いたら、私、子供妊娠した時に、親に…あ！ ごめん！ これ言えない！

—え？！ なになに？

……私、実は、一回おろしてるじゃんね。

—え？！ いつ？

えっと、カイ(仮名)を妊娠する一年前、におろしてて……その時は、私の意志が弱くて……うちらは、嬉しかったの！「どうしよう……でも、うれしいね」って言ってる。とりあえず、悠の親に言ったの。そしたら、「ほんとー」って、認めてはくれたの。その時に、(悠は)次男なのに、「直美ちゃんか、うちに来るなら家引つ越さんといかんね」って言われて。え？！一緒に住むの？！ っと思つたやんね(笑い)。でも、とりあえず、認めてくれとつて。次に、うちの親に言う時に、すごい号泣されて、「こんなに大切に育ててきたのに……」って、泣かれて。

—その時つて、まだ十九歳つてこと。

うん。十九歳。大学はいつてすぐ。だから、猛反対されて。勝手に全部決められて、病院連れていかれて。そのままおろす日にちを勝手に決められた。でも、私は納得してなかったの。認めてほしかったけど、どうすることもできなくて。話をどんどん進められてつちやつて……。自分がもつとしつかりしてれば、守れたんだけど。その時の自分には、守れなくて、おろした。

—おろした時、悠くんはなんて。

その時、まだ学校通ってたし、悠も守れんかったもんで。「責めるなら、自分じゃなくて、俺のことせめていいよ」って

言ってくれた。

—手術、いたかった？

ううん。麻酔しとるもん、全然。麻酔して、すぐに意識がなくなつて、寝てた。手術終わつてから、目が覚めたの。麻酔がぬけるもんで。でも痛みはなくて、軽く麻酔が残つてて。目はなんとか、うっすら開くんだけけど、体が全く動かなくて。看護婦さんに抱えられて、ベッドで寝たやんね。それで、意識がもうろうとしてたから、また寝ちゃつて、そしたら、夢をみたの。

肩ぐるま

—どんな夢。

すっごい不思議なんだけど、「おぎやー、おぎやー」って聞こえるもんで。どっかで、赤ちゃん産まれたんだーって思つて。よかつたなーって思つてたの。そしたら、そのまま寝ちゃつて。そしたら、すっごいきれいな青空が出てきて、きれいな青空だなーつてみてたら、あかちゃんの笑つてる顔がパつて出てきて。

その顔が、どんどん空に向かって消えてつて。あれ？ っと思つて。ぱつと前みたら、悠が男の子の赤ちゃん肩車して、二人でこっちに歩いてきたの。そこは、東山動物園で、悠が赤ちゃん肩車して、こっち近づいてきて、私と合流して、三人で動物みてる夢をみたの。

そしたら、目が覚めて、目の前にお母さんがいたの。「大

「大丈夫」って聞かれて、「大丈夫だよ」って答えて。「今、赤ちゃんの泣き声聞こえたね。誰か産まれたんだね」って言ったなら、「聞こえなかったよ」って言われたの。

夢の話をお母さんに話したら、お母さん泣き崩れて、号泣してて。看護婦さんに聞いたなら、「赤ちゃん産まれてませんよ」って言われて。悠に聞いたなら、「俺も聞こえたけど」って言ったの。「俺が廊下で、ボーっとしてたら、赤ちゃんの泣き声が聞こえたから、あー産まれたんだって思ったよ」って。うちらにだけ、聞こえたやんね。

—すごい！

そう。動物園はさ、妊娠してから出かけたのが、東山動物園で。それが、最初で最後だったやんね。それで、夢に東山動物園でできたもんで、ほんとにびっくりしてさ。悠に話して、二人で泣いた。「うちらにだけ聞こえたね」って。

ほんで、一年後にまた妊娠して、出産予定日が、まったく一緒だったの。これは、絶対奇跡だよなって。今回は、絶対に産みたいって思ってた。家でる覚悟で、「縁きってでも、この子を守りたい。認めてくれなくてもいいから、産む」って言ったなら、やっとなんて認めてくれて…。

「縁きってでも、大好きな人との子供を守るって決めたんだから、その時の気持ちを忘れないで、がんばりなさい」って言うてくれて…ごめん、すごい話飛んじやっただけけど…それで、結婚前夜に、「悠くんの方が好きで、大好きな人の親なんだよ。その人が、産んでくれたんだから、感謝しな

やくかんよ」って言われたの。だから、納得して、がんばって好きになろうと思ってる…。でも、好きじゃないけど(笑い)、やっぱ、悠を産んでくれたし、育ててくれたから、感謝はしてるかな。

結婚式

—妊娠発覚して、すぐ結婚式だったよね。

そうだね。発覚して、親に認めてもらって、結婚式を決めて、一か月で挙げたの。悠は、会場の花とか演出とか、一直美の好きにしているよ」って言うんだけど。それを、司会者さんとかが、「いい旦那さんだね」って言うてるんだけど。私的には、あんまり気じゃないのかな…って思えちゃって。

それでちよつと、イラってしちゃったやんね。だったら、私も何でもいよって。結婚式の決めるのとかも、見るからに、テンションが下がって、そこで、向こうの親をかばってるのかな…って思えたし。それで、いっぱい喧嘩した。

—結婚式当日は。

緊張して、死ぬかと思った。でも、悠見たら、もつと緊張しとって、笑えた(笑い)！お父さんも、お母さんも、私よりも泣いていた。恥ずかしかったけど、楽しかった！もう一回挙げたい！

—結婚生活ってどう。

やっぱ楽しいよね。毎日好きな人と一緒におれるし、楽

しい。付き合ってた時、うちの親が厳しいもんでさ、親からメールがきて、いつ帰ってくるの？とか、早く帰ってきなさいよ、とか。それを相手に言うのもさー、言いにくいし。縛られてるじゃん。やっぱり。でも結婚したら、ずっと一緒におれるし、楽しい！ 本当！

―結婚して学んだことは。

うーん…そうだ！ 私、本当に料理できないんだけど。結婚してから、ブロッコリーゆでること知ったの。

―えー！！

ほいでさ(笑い)、ブロッコリー、こうやって、普通に切つて、そのまま、盛りつけてそれを出そうと思ったら、悠がさ、突っ立とって、「え？ それそのまま出すの」って言われて。「え？ そうだよ」って言ったら、「ねえ、それゆでるんだよ」って言われて。「え?! ブロッコリーってゆでるの」ってなったの。ひどいだら？ そんなことがあった(笑い)。